

# 九州ジャグリング大会 ジュニア部門 審査要項

2018年12月26日 第1版

本審査要項の対象は九州ジャグリング大会「男子ジュニア部門」「女子ジュニア部門」であり、九州ジャグリング大会 Web サイトで公開している「基本ルール」を前提としている。本審査要項において、便宜的に言葉を定義することがあるが、本審査要項以外に一般的に適用されるとは必ずしもいえない。なお、本審査要項は予告なく大会当日までの期間において変更される場合がある。

## 0. 方針

九州ジャグリング大会の目的は「多くの人にジャグリングの発表の機会を提供すること」である。そこで、多くの人にとって出場しやすくなるような審査要項を目指す。

## 1. 審査方法

### 1.1 審査項目

審査には【技術】【演技】【時間超過による減点】の三つの項目がある。審査員が【技術】【演技】の二つの項目に点数をつける。それぞれ45点満点、1点刻みである。審査補助係が演技の時間を計測し、超過時間に応じて【時間超過による減点】を決定する。

### 1.2 得点集計方法

審査員をグループAとグループBの二つのグループに分ける。グループAの審査員は【技術】のみを審査し、グループBの審査員は【演技】のみを審査する。グループAの審査員がつけた点数の平均を選手の【技術】の得点とし、グループBの審査員がつけた点数の平均を選手の【演技】の得点とする。総合賞の順位は、【技術】と【演技】の得点の和から【時間超過による減点】を引いた総得点により決定する。

**評価軸：【技術】+【演技】-【時間超過による減点】**

なお、得点集計方法はジュニア部門とそれ以外の部門で異なる。これは審査時間短縮が目的であり、ジュニア部門で審査員によるフィードバックを実施するための措置である。

### 1.3 同点の場合の優先順位

同点の場合は以下の優先順位で順位を決定する。

- 1) 【技術】の得点が高い

評価軸：【技術】

- 2) 【時間超過による減点】が低い

評価軸：【時間超過による減点】

- 3) 審査員による協議

審査員による協議で順位を決定する。時間内に協議が終了しない場合は同順位とする場合がある。

## 2. 審査基準

本大会での審査は、純粋に演技の内容に対して行われるもので、そのときの演技の内容以外のいかなる要素（過去の受賞経験、年齢、容姿、職業、学歴等）も審査の対象にはならない。

### 2.1 【技術】（45点満点）

技術の項目では、ジャグリングの技術、すなわちルーティン中に成功した技を評価する。「ルーティン」とは演技開始から演技終了までのパフォーマンスである。「技」には連続技を含む。成功には至らなかったが審査員によって評価すべきであると判断された技も若干の加点対象となる。ただし、成功の見込みがない技は加点対象とならない。具体的には次の(1) - (4)を評価する。

- (1) 審査員が難しいと判断した技（難易度）
- (2) 審査員が新規性や希少性があると判断した技
- (3) (1)(2)に当てはまらないが、審査員が高く評価すべきであると判断した技
- (4) それぞれの道具の性質を考慮した上での技の量

審査員は(1)難易度を重点的に評価した上で、(1) - (4)を総合的に評価する。技術の項目では、加点方式を基本に採点を行う。そのため、技の失敗や技の少なさによって技術の項目で減点されることはない。

## 2.2 【演技】（45点満点）

演技の項目では、ルーティンの完成度と構成を評価する。

### 完成度

選手が上手にルーティンを行うことができたかを評価する。ドロップやミスのような失敗は減点の対象となる。失敗を取り返す行為が認められる場合、減点されないこともある。ジャグリングの安定感も評価の対象とする。

### 構成

ルーティンの演出を評価する。具体的には主に次の(1)-(3)を評価する。

- (1) 技の順序の工夫、技の多彩さ
- (2) 技と技以外の要素（音楽、衣装など）の調和性
- (3) 技以外の要素同士の調和性

審査員は完成度を重点的に評価した上で完成度と構成を総合的に評価する。加点減点方式を基本に採点を行う。

## 2.3 【時間超過による減点】

ジュニア部門では次のように時間超過による減点を決定する。超過した秒数の小数点は切り上げる。

1 秒 - 30 秒	減点なし
31 秒 - 40 秒	5 点
41 秒 - 50 秒	10 点
51 秒 - 60 秒	20 点
61 秒以上	30 点

なお、ジュニア部門とそれ以外の部門で減点方法が異なる。